第2学年学年通信

最終号　　平成２４年３月発行

平成２３年度の最後を飾る行事「コーラス大会」が３月９日(金)に行われました。２年生にとってはこれが最後のコーラス大会だけに、この大会にかける思いは並々ならぬものがありました。とはいえ、時間的に厳しい状況でもありました。２月の初旬から半ばにかけての修学旅行、そして２月末の学年末考査や卒業式という大きな行事が立て続けに行われたためです。しかしながら、その間隙を縫うようにして、ないない尽くしの時間をやりくりしながら、課題曲に、自由曲にと取り組みました。

課題曲は例年のごとく「生徒の作詞・作曲による」方式で作られました。作詞はＡ組の杉浦千珠子さん、作曲はＥ組の山本葉月さんです。自由曲はクラスそれぞれが個性あふれる選曲を行いました。以下がその一覧です。

クラス名	曲　名	クラス名	曲　名
２－Ａ	瑠璃色の地球	２－Ｆ	虹
２－Ｂ	この地球のどこかで	２－Ｇ	ひとつの朝
２－Ｃ	心の瞳	２－Ｈ	ＣＯＳＭＯＳ
２－Ｄ	旅立ちの時	２－Ｉ	時の旅人
２－Ｅ	明日へ		

自分たちのクラスの個性や伝えたいメッセージを一番表現できる曲はどれか、そんなコンセプトで選ばれた曲は、その表現の方法もそのクラス独特の「味付け」―ブレスの位置や強弱の付け方に工夫―が凝らされ、聞く者の心をひきつける発表が行われました。

何よりも体育館中に響き渡る豊かな声は、昨年の経験を踏まえて一人ひとりが発声に気を配り、また、パートの人員や並び方を工夫した成果が見事に表れた証といえましょう。

結果は甲乙つけがたいものの、以下のとおりとなりました。今年は開校 110 周年を記念して、優勝トロフィーが新調され、第１回目の受賞者としてＧ組がその栄冠に輝きました。

2-A

優勝トロフィー

順　位	クラス名
1　位	２－Ｇ
2　位	２－Ｂ
3　位	２－Ｉ
4　位	２－Ｄ
5　位	２－Ｃ

2-B

2-C

2-D

2-E

2-F

2-G

2-H

2-I

◇コーラス大会を終えて（生徒作文から）

【A 組】

昨年のコーラス大会、先輩方の熱い思いと迫力にただただ圧倒されたのを覚えていますが、その日は東日本大震災が起こった日でもありました。今年のコーラス大会、A 組は自由曲「瑠璃色の地球」に被災地の復興を願う気持ちを込めました。なかなか上手くいかなかった合唱も、練習を重ねるにつれてどんどん良くなっていく歌声を聞いたり、みんなの生き生きとした表情を見たりすると、この A 組で指揮を振ることができてとても幸せだったし、達成感でいっぱいです。短い練習期間でしたが、密度の濃い時間をすごし貴重な経験ができました。

【B 組】

このクラスで迎えた最後の行事、コーラス大会が終わりました。合唱が終わると張りつめていた緊張がとけ無事に歌いきれたことへの安堵感で一杯でした。何度も指揮者と話し合い練習を進めましたが、何か他のクラスとは違った訴えかけるようなものがないといけないんだと思うと同時に、自分達自身の合唱に感動できなければ聴いている人たちの心をつかむことはできないということに気づきました。そして練習最終日、みんなと練習できるのも最後だと思うと悲しくて皆泣いていました。前日までのありふれた合唱とは明らかに違っていました。

【C 組】

クラス全員で手をつなぎ最後の練習を終えた時、それまでとは違った涙が自然に頬をつたった。それは自分一人だけではなかった。「いつか若さをなくしても心だけは決して変わらない絆で結ばれている」。この歌詞と同じ思いを全員が実感していたのであろう、本番はただ楽しくて、これまでで１番すばらしい C 組らしい合唱ができた。言い表せないほどの達成感と充実感でいっぱいだった。結果は 5 位入賞とめざしていたものには届かなかったが、私たちはそれ以上のものを確かに手に入れたのだ。

【D 組】

「時間がない」中、個々の温度差と焦りでクラスはバラバラだった。でもこの課題に目をつむってしまうのではなく、お互い正面からぶつかり合い良い方向へと雰囲気を変えるようがんばった。ここが D 組のターニングポイントだったと思う。舞台上で指揮台から一人ひとりの顔を眺めていると、個性の強いメンバーですごした 1 年は濃く良いものだったなと少し寂しい気持ちや私もこのメンバーの一員である誇らしい気持ちと何より感謝の心で胸が一杯になり、思わず涙しそうだった。

【E 組】

合唱の練習が始まる以前からクラスには問題があった。男女比の関係でパート分けが難しく、合唱隊形にも影響を及ぼしたからだ。しかし、一人ひとりが考えを持ち寄り、指揮者やリーダー中心に話し合いを重ねるにつれて改善の糸口が見え、少ない練習時間でも、難しい課題曲でも、声量は日ごとに増し、音程も安定してきた。ただもう、みんなの努力の賜物だと思う。２年生にとって最後のコーラス大会は、どのクラスもその思いのあふれた素晴らしい歌声を響かせたが、行事に全力で取り組む小野高校の姿勢をしみじみと感じ、自分にとって最高のものとなった。

【Ｆ組】
　いつもＦ組はどの先生からも「静かだ」「大人しい」と評価されていました。しかし、コーラス大会の練習が始まるや、打って変わった「騒がしさ」、そして「熱の入れ」方はクラスの眠っていた力を見せつけるもので、「本当のＦ組」を耳と肌で感じました。当日の私たちの歌声がどの程度聞いてくださった方々の心に響いたかはわかりませんが、確実に言えることはただひとつ、「仲間という宝物」を手に入れたということです。残念ながら入賞はできませんでしたが、胸を張っていい演奏ができたと思えるからです。一人でも欠けていたら絶対に同じ合唱はできなかったと思えるからです。こんな仲間に恵まれたこと、先生方に支えられていることに感謝します。
【G組】
　合唱のリーダーとして、指揮者として、こんなに短期間でまとめることができるのだろうか、正直な私の感想でした。こんな不安を吹き飛ばしてくれたのが、全員一致で協力したくれたクラスの皆でした。本番前日、メッセージの書かれた袋にはいったチョコレートを副委員長が一人一人に配ってくれました。「感動させる」「こころを込める」「精一杯」･･･。本番を終えた今、やりきったという達成感と、みんなへの感謝の思いで心が一杯です。一抹の寂しさはあるものの、自分たちが誠心誠意一つの目標に向かって突っ走れたこと、仲間がいて、先生がいて、絆があって取り組めたこと、この大切な思い出をそっとしまっておこうと思います。
【H組】
　やっぱり小野高校はすごい、今の実感はこれに尽きます。修学旅行を経て深まった絆、そして昨年よりも成長した姿、この二つを自由曲に込めよう、そう思って練習に励みましたが、意見の対立や焦りなど決して順調ではありませんでした。しかし、対立はあってもより高次元を求めてのことです、真剣に真面目に地道に練習を続け、涙が出そうになるほどの歌声を出せるまでになりました。一つの行事に対してみんなが集中する環境があり、短時間で精度の高いものを生み出せる力がある、それが小野高であり、小野高の底力なんだと実感しました。H組らしさのあふれた合唱ができ、達成感・充実感とともに、またまた今まで以上にH組が好きになりました。
【Ｉ組】
　２年生になって以降、行事の度に入賞し成果を残しているＩ組にとって、２回目のコーラス大会にはさほど「熱」がこもっているとは言えない「とりあえず」感がクラスに漂っていました。
それが変わったのは大会前日の午後２時です。この空気を何とかしたいとの思いにみんなが応えてくれたのです。「このままじゃやばい」「男子いったれ」そんな声が口々にのぼり、自然とパート練習が始まり、「伝える」歌声を作ろうと心が一つになっていきました。本番後にいただいた拍手は、モチベーションと最後までの粘りがいかに大切か、ということにに私たちが気付いたご褒美のように思えました。